

REC'D 10 MAR 2005

WIPO

PCT

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 PCT03001	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/12709	国際出願日 (日.月.年) 03.10.2003	優先日 (日.月.年) 07.10.2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ¹ A01K9/00, A61D7/00, A61J9/00, A61J11/00		
出願人 (氏名又は名称) 明治乳業株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a ☒ 附属書類は全部で 2 ページである。
- ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 30.07.2004	国際予備審査報告を作成した日 16.02.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 坂 田 誠 電話番号 03-3581-1101 内線 3235	2B 9318

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-4, 6-16 ページ、出願時に提出されたもの
 第 5 ページ*、30.07.2004 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 8 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 1, 4, 5, 7 項*、09.02.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-3 ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、_____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 2, 3, 6, 9, 10 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1, 4, 5, 7, 8	有 無
	請求の範囲		
進歩性(IS)	請求の範囲	1, 4, 5, 7, 8	有 無
	請求の範囲		
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1, 4, 5, 7, 8	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

請求の範囲1

乳首内に交換可能で内径を維持できる硬質の部材からなる細管部を設ける点は、国際調査報告に列記した文献のいずれにも記載されていない。

請求の範囲4, 5, 7, 8

哺乳瓶中に設けた交換可能な筒状部分に、計量用の目盛り及び/または可動式の目印をつける点は、国際調査報告に列記した文献のいずれにも記載されていない。

また、第二に乳首内をシリコンゴム、イソpreneゴム、スチレン-イソpreneゴム等やそれらをスポンジ状とした弾力性のある部材で満たすか乳首外壁と一体となって形成し、液体状給餌物等が乳頭部と細管部以外の乳首部分に溜まらない構造とした。


これらの構造は乳仔が乳首をくわえた際や吸引をした際に乳首が潰れて一度に多くの液体状給餌物等が出ないようにする為である。これにより乳首を2重構造とする必要がなくなり、乳首の構造が単純化することでDの課題を達成することになった。

さらに液体の漏出防止と流量の制御をより確実にするため、人工乳首に組み合わせて用いる哺乳瓶にその内部を閉鎖系として内圧をコントロールすることで液体の吐出量をコントロールする機構を用意した。具体的には乳仔が一回に飲む液体の予想量より2、3割容量の少ない液量調整用チューブを哺乳瓶に付けた。この液量調整用チューブは乳仔の吸飲に際してほとんど抵抗なくつぶれるようになっており、乳仔の吸飲動作に影響を与えることはない。液量調整用チューブがつぶれると液体の供給は止まるがその状態で哺乳瓶外部にさらに設けた加圧用チューブに手指等で圧をかけて液量調整用チューブを膨らますことができるようになっており、膨らませた容量分の液体をさらに飲ませることが可能になっている。

乳仔が飲むことを止めた時に手指での加圧を止めると哺乳瓶内は陰圧となって液量調整用チューブは再びつぶれ液体の流出を止めることができる。これによって乳仔個々の吸飲量に対応した液体を供給することと液体の漏出防止を同時に実現することができる。

また、加圧用チューブを利用して乳仔の吸飲の開始を促すことも可能である。即ち乳仔は口の中に乳首が入った時点ではなくミルク等が入ったことを感じて吸飲を開始するので加圧用チューブに僅かの圧力をかけて乳首から少

請求の範囲

1. (補正後) 乳首内に交換可能で内径を維持できる硬質の部材からなる細管部を有し、且つ乳頭部と細管部以外の乳首部分が弾力性のある部材で充填すること又は弾力性のある部材で乳首外壁と一体となって形成することで成されていることを特徴とする実験動物用人工乳首。
2. 
3. (削除)
4. (補正後) 請求項1の人工乳首と共に用いられる哺乳瓶であって、哺乳瓶中に交換可能な筒状部分を有し、当該筒状部分に計量用の目盛り及び／または可動式の目印をつけたことを特徴とする実験動物用哺乳瓶。
5. (補正後) 請求項1の人工乳首と共に用いられる哺乳瓶であって、哺乳瓶中に逆止弁と交換可能な筒状部分を有し、当該筒状部分に計量用の目盛り及び／または可動式の目印をつけたことを特徴とする実験動物用哺乳瓶。
6. (削除)
7. (補正後) 実験動物が所定量又は任意量の液体を飲む事で哺乳瓶中の内圧が陰圧となって液体の流れが止まる機構を有する請求項4または5に記載の実験動物用哺乳瓶。
8. 実験動物が所定量又は任意量の液体を飲む事で哺乳瓶中の内圧が陰圧となって液体の流れが止まり、その時点で哺乳瓶外部から圧を加えることによってさらに実験動物が液体を自発的に飲むことが可能となる機構を有する請求項7に記載の実験動物用哺乳瓶。
9. (削除)
10. (削除)